

広報オススメ本 10月 テーマ「サーカス」



「サーカスの夜に」 小川 糸／著 新潮社

祖母と暮らす13歳の少年は、まだ両親と離ればなれになる前に見たサーカスの楽しい思い出を胸に、レインボーサーカス団に入ることを決意する。まずは雑用として入団した少年は、個性的な団員達とのやりとりのなかで少しずつ成長していく。



「草原のサーカス」 彩瀬 まる／著 新潮社

『この明るくて軽快な調べは、サーカスだ』『なら、どれだけ怖くても、笑顔でその場に立ち続けるしかない』新薬の開発で脚光を浴びる姉、依千佳。アクセサリーデザイナーとして活躍する妹、仁胡瑠。成功を掴んだに見えた2人だったが・・・。



「サーカスから来た執達吏」

夕木 春央／著 講談社

多額の借金を背負う樺谷子爵家。そこに取り立て屋として、サーカスから逃げた少女ユリ子が現れた。ユリ子は、借金を払えない場合は担保として三女の鞠子を預かるという。大正時代を舞台に2人の少女が活躍する冒険ミステリーです。